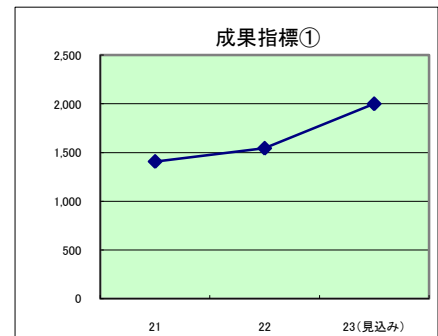
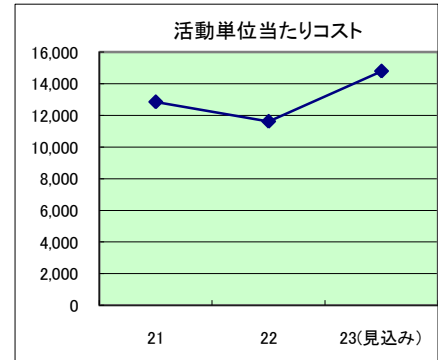


事務事業名	献血推進協議会助成事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち	款	3	民生費
	施策(節)	2	地域福祉	項	1	社会福祉費
	施策の方向	(1)	市民による地域福祉活動の促進	目	2	社会福祉事業費
				事業	5	社会福祉対策
関連する計画等			作成部署	保健福祉部福祉総務課		
事業の目的	対象(誰を・何を)		連絡先	072 - 958 - 1111 内線 1121		
事業の内容	羽曳野市献血推進協議会					
	意図(どういう状態にしたいのか)					
	活動の活性化と献血者の増加を図る。					
献血思想の普及と市内での献血の実施を行う団体への助成事業 事務局は市社会福祉協議会 市内スーパーや公共施設での献血車による献血事業を実施						
根拠法令等	羽曳野市献血推進協議会助成金交付要綱					
事業開始時期	☐ 昭和 11 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 11 年開始 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている 終了年度 平成 年度					
事業開始時からの状況変化	平成21年度より助成金を350,000円から300,000円に減額した。					
市民や議会の要望						
実施手法	☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称()			委託内容		
	☐ 民間委託 ☐ その他					

区 分		21年度	22年度	23年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		300	300	300
人件費【2】 (千円)		150	72	144
職員数	正規職員	0.02 人	0.01 人	0.02 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		450	372	444
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	450	372	444
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		21年度	22年度	23年度(見込み)
① 献血実施回数	回	35	32	30
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		12,857 円	11,625 円	14,800 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		4 円	3 円	4 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方		平成21年度	平成22年度	平成23年度
	①	採血者数	人		目標	2,000	2,000	達成率(%)
		(式)			実績	1,407	1,543	77.2%
	②				目標			達成率(%)
		(式)			実績			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	公益活動であり、今後も補助は必要である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	輸血用血液の不足が問題になっており、必要な業務である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☒	☐	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	事務局は市社会福祉協議会が担っており、ボランティアの運営となっているため、人件費等の支出はほとんどなく、効率性は高い。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	献血者の増加のために、必要不可欠な業務である。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	これまで以上に、献血への意識を高める必要がある。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	少子高齢化社会が進む中、献血者数の減少は大きな社会問題である。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	社会福祉協議会が献血推進事業を担っているが、血液の安定供給のため献血の周知に努めなければならない、事業推進のため助成を続けていく。	
行革本部評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
行革本部評価	評価理由・意見	